

「JTB」「無資格通訳」問題で浮かぶ利権狙い

実業界

7

The Analytical
Magazine
for Economics

2011

創刊60周年

毎月1日発売

昭和27年2月28日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行 平成23年7月1日発行 第992号

架空売り上げ計上で
証券監視委からお灸!

「SBI」

ブランド傷つけた
不肖のシステム子会社

- 「伊藤園」マイナー
“拡大戦略”の限界
- 「ワタミ」外食ビジネス
環境悪化で
渡邊美樹不在の不安



招待席

日本の常識は世界のヒジヨウシキ 変化を恐れない、復興後のヒトづくりを

——「歯の治療」だけ行うのが日本の常識、欧米は違うとか……。

亀井 「口の不健康は万病の元。歯周病といくつかの生活習慣病の関連性などは科学的にも認められ久しく、歯のケアと関連ある病気の治療を同時に進めるといのが、先進国



長栄歯科クリニック院長

亀井英志

では常識です。ただ、日本でその「常識」を医師が実践していくことは、制度的にもなかなか難しい。歯医者さんに行くと「はい、口を開けて」となりませんが、私は、患者さんに口を開けてもらう前に、雑談を交えながら、簡単な問診を行うようにしています。問診の後、体の不調を抱えている、という患者さんの口の中をそこで初めて見せていただくと「さもありなん」と、良い状態でない。歯の治療は引き受けませんが、他の診療科へも一度行かれたほうが、という患者さんがやはり増えている。

亀井 良し悪しは別として、少数派ですね。残念なことだとは思いますが。ただ、口の健康維持が体のトータルケアの一步、という考えは、特に若い先生たちにとっては常識です。旧来の非常識が将来の常識となるような良い変化を望みます。

——今回の震災後でも、従来の非常識が、常識に、と変化が窺えますね。
亀井 常識になった後、いかに早急に変えていけるかということが肝要ですよ。変えていくというのは骨の折れることではありませんが、一歩踏み出さねば、自体は悪くなるだけ。過去の積み重ねもあり、変えること、変えていくことはそう簡単にはいかない。制度やルールなどは特に難しいでしょう。ただ私は変わる、変えるということは、まず捨てること、と考えます。変化を恐

——寡聞にして先生のような丁寧な歯科医を知りませんが、先生のようなスタイルは少数派？

れるな、ということ。変化とはとてもミステリアスで、ヒトが前に進むエネルギーであると思います。震災を機にということでは、変わらないというのも少し寂しい話ですね。日本社会は、特に最前線、現場に近い人ほど生真面目で熱心ですから、復興に過度の懸念はありません。一方、現場から遠いヒトほど安逸に過ぎたと思うのですが？復興後の日本を担っていく若い力の育成は今から始めないと間に合いませんよ。リーダー層にそうした意識が希薄なのがとても気になります。我々医師の世界でも同様ですが、人づくりは、リーダーの責任。その無責任が今のままでは、復興後の障りにならないか危惧します。私は、自分のフィールドで人づくりに邁進するつもりです。